

◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ http://www.s-o-s.co.jp

わが子の成長／ナイス・キッズ

私の子供は男の子がふたり。
先日、私が少しの間留守番を頼んだところ、長男（6年生）から電話がかかってきた。「母の日に何もしなかったから、今日は僕たちで夕食を作るよ」と。一瞬、「ガスを使うってこと？（火の元は？）包丁を使うってこと？（怪我は？）」と心配な気持ちが言葉となってしまいそうになったが、それよりもその気持ちが嬉しかったので何とか飲み込んだ。その日、私が帰宅するとカレーライスとスクランブルエッグが食卓に並んでいた。

私は食卓に座り『いただきまーす♪』
「おいしい？」
ふたりから感想を聞かれる。美味しそうに決まっている。何せ気持ちがこもってるもん！3人で夕食を終えた。出張中で不在の夫には申し訳ないが子供達からの愛情を噛み締めながら幸せな時を過ごした。



日々はあっという間に終わり、1年経つのも早い。親の知らないうちに子供達はいろいろな経験をする。やんちゃな面もあるけれど、しっかり成長しているのを感じ取れた幸せなプレゼントだった。(H・O)

同じ気持ち／愛宕の家

私事で恐縮ですが先日入院をしました。
予期せぬ事で戸惑うまま病室へ連れて行かれ、お産以外で入院したのは初めて。身体的に痛みがある訳でもなく、ただ「安静にするように！」と言われた。そこでの生活はただひたすら退屈な時間をどう費やすかという日々。テレビを見るか携帯をいじるか。・・・買ったばかりでまだ読んでいない本を持ってくればよかったなあと思ってみたり…。とにかく一刻も早く家に帰りたかった。

そこで、ふと思ったのが、愛宕の入居者の方々の言葉。「早く家に帰りたい。」「今日もここで泊まるの？」等々…。普段はここでの生活を受け入れているかのように穏やかに過ごしているように見える。だが、少し不安に思うことがあるとそんな言葉が出てくる。

入居者の気持ちを分かっていたかと思っていたが今更ながらその言葉が身にしみた。退屈な時間や、自分では動けると思っているのに「動かないように」と言われ、でも食事の時間は楽しみといった私の入院生活と変わらないのではないかと？

普段と違う環境で思考が少しネガティブになってしまったが、退院して皆さんの笑顔を見て思った。楽しいなあ、安心するなあという気持ちが少しでも長く感じられるように、関わっていけばいいのではないかと。愛宕の家の家族としてどう過ごそうか、改めていろいろ考えてみたい。
ちなみに、長〜く感じた私の入院生活は2泊3日で終わりました。(K・T)



《6月予定》

- 10日 外食DAY & あじさい花見
- 18日 救命救急講習（社内）
- 20日 避難訓練
- 24日 誕生日会
- 26日 救命救急講習（社内）

《不定期行事》

天気や意欲等で状況判断し、外出先一覧を参考に社会生活に参加します。

《利用状況案内板（☆募集中 ★満員）》

☆ナイス・ケア
☆ナイス・デイ（定員10名/日）

日	月	火	水	木	金	土
5	7	8	6	5	7	6

☆ナイス・ホーム（登録者18名/定員21名）
☆愛宕の家（入居者16名/定員17名）
☆つしま紹介所 ☆ナイス・キッズ
★打太鼓

～上記を参考にご利用下さい～

いのちのはなし／ナイス・デイ

先日、父が89歳にて生涯を閉じました。3年前に1ヶ月腹膜炎で入院した事をきっかけに、歩くことが出来なくなりました。その後は施設で過ごし、施設からデイサービスへ通い、我が家に居ると同じように我が儘を言ったり、無理な事も言うてきました。が、それが父らしい生活でした。私の仕事柄、何度も何度も自宅で介護をした方が良いのでは？と悩みましたが、自分だけで抱え込まず、皆さんの力を借りて、助けてもらう介護生活を選びました。“頑張り過ぎない、でも後悔しない”という想いで父を見てきました。

父の死は突然でした。しかし、眠りながら穏やかに苦しむことなく幸せそうに旅立ちました。
近年、『終活』という言葉をよく耳にします。私自身、とても興味があり、自分自身のこれからの人生設計（葬儀や墓の事など）を色々考えるようになりました。

でも大切なのはそこだけではなく、人生最期の数年間を、『いかに自分らしく楽しく輝いて生きるか』ではないかと思えます。ナイス・デイに通ってくださる方々に、どう輝いて生きてもらえるか？それが、真実の『終活』。
責任重大です・・・。(M・O)



不安と恐怖の毎日に／ナイス・ケア

夫婦で愛宕の家へ入居され、夫を看取ったTさん。
あねご肌で他の方にも『元気か？』『ご飯食べなあかんぞ』といつも周囲を気にかけ、目配り声掛けをされていた。読書家でコーヒー通、「暑くても寒くてもお風呂はご馳走。」と入浴を楽しみにしていた。もともと難聴で、何とか聞こえるときもあれば、口の形で理解してくれる事もあった。Tさんとコミュニケーションを取る時はその時々体調や様子に応じて身振り手振りを取り入れたジェスチャーや筆談等ありとあらゆる手段を使っていた。
ところが・・・。

Tさん、最近めっきり会話や笑顔が減ってしまった。
耳がぼぼ聞こえてないことに加え、認知症の進行でジェスチャーや筆談等の理解が出来なくなっている。あんなに大好きだったお風呂にも恐怖心を抱き、嫌がられるようになった。聞こえない世界と認知症の進行でいろいろな認識ができない世界に入り込んでしまったTさん。私たちにはTさんの不安や恐怖は図りしれないものと想像する。
「お風呂がご馳走。」を思い出してもらいたい。笑顔が見たい。大好きなコーヒーを思い出して美味しく飲める日があつていい。Tさんがどのような気質の持ち主だったのかを知っているはずの私たちだからこそその関わりがきっとあるはず。
気持ちが空回りしないよう、Tさんにしっかり向き合い、出口の見えない恐怖や不安の世界からひと時でもいい、穏やかに過ごせるような援助をしたい。試行錯誤の毎日です。(T・M)

担当者変更による影響／SOS

愛宕の家を担当する名古屋の薬局の担当薬剤師が3月から変更となり早4ヶ月。今も、新しい担当薬剤師等との連携に試行錯誤しています。他の薬局への変更も考え何件か検討しましたが、変更するだけの価値を見出せず、今のところ、現在の薬局のまま。
継続を決めたものの、人材が変わるだけでこんなにも業務内容が変わるものなのかと正直、驚いています。“多種職協働”をもう一度、実現させるために、どんな歩み寄りが必要なのか模索は続いています。

しかし、これは私たちの事業所にも同じことが言えます。担当が変わることで相手に与える不安がどれほど大きいものなのか、改めて今回の担当者変更で学びました。

いくら事業所都合でも、当事者からしてみれば“そんな都合は分からない。もし変わるなら同じような能力をもつ担当者に来てほしい。”となるでしょう。しかし・・・、事業所としても変更せざるを得ない状況だからこそ変更した。そこで、その不安を少なくするためにどんな関わりが必要であるのかを真剣に考えなければいけない。いくら真剣に考えても、相手に不安を与えていることを自覚しなければいけない。自分本位になっていないか？相手の様子・言葉から何を望んでいるか見極め、その手段を考えているか？先を見据えているか？担当者任せになっていないか？等々。

介護・看護こそ人材が命。相手を知ったつもりでは足りない。相手を知るためにどう行動に移す？そう、人の振り見て我が振りなおせ。(M・T)

《編集後記》

今年度、認知症実践者研修に2名のスタッフが行けることになりました。昨年度も2名。認知症について基本から学び、実践に活かすための研修です。(来年からは予備研修を受けた人しか受けられなくなるそうです)全部で5日間。施設実習あり、発表ありで充実した内容。このチャンスを日頃の関わりに活かし、全体のスキルアップに繋がります。(Y・O)



5月は運営推進会議あまた、登録者さんのケアプラン見直しや介護保険証の更新で担当者会議あり、その度に色々な職種の方と話す機会が多くありました。ナイス・ホームの日常でも、介護・看護・ケアマネがそれぞれの立場で意見を出し合うことは日々あります。馴染みの関係だからこそ見えてくるものは山ほど沢山あります。しかし、一方で関係事業所の方々の意見もとても新鮮です。
馴染みの関係になってしまったから見えなくなってしまうこと、気付けなくなってしまうこともあると気付くのです。ケアマネとして、それぞれの職種や性格などによる視点の違いを柔軟に見極め、それを個々のプランにどう生かせるかという考え方をするようにしようと自分に言い聞かせています。
毎日“耳をダンボ”にして過ごします。自分にはない目線からの利用者さんが見えてきます。
今回の担当者会議は訪問診療日に合わせて開催。かかりつけ医師からの意向も確認でき、今後訪れるであろう終末期についても議題が上がりました。
あらゆる考え方を吸収し、どうケアプランにまとめられるのか、本人や家族、また、関わる人にどう伝達できるか。そこから、どのような現実的な関わりに変化していくのか。連携を取りながら一人ひとりとしっかり向き合っていけるようなケアマネになりたいと思っています。(Y・O)

小学1～中学2年生が4コマ漫画を描き、その中で選りすぐりの一枚♪

